

第5学年東組 音楽科学習指導案

学習指導者 溝渕 佳子

1 単元 「和音や低音の響きを感じ取って演奏しようー『茶色のこびん』・『こきょうの人々』ー」

2 単元について

(1) 学びに熱中する子どもの姿と「思考力」の育成

【育成したい「思考力」】

「茶色のこびん」や「こきょうの人々」の曲想や歌詞から想像した情景と結び付けながら、音の重なりを自分の表したい情景に合うように創意工夫する力

主旋律と伴奏の音の重なりの変化による曲想の変化に興味をもち、主旋律と伴奏との音の重なりを聴き合いながら、より自分の思いや意図に合う演奏を目指して練習を続けている。

【学びに熱中する子どもの姿】

本単元では、明るく楽しい感じの『茶色のこびん』や、静かでゆったりした感じの『こきょうの人々』の曲想や歌詞から情景を思い浮かべ、主旋律と、伴奏となる低音や和音との重なりや、さまざまな楽器の音の重なりを自分の思いや意図をもって表したい情景に合うように工夫していく。その際、上記「思考力」が育成されていく。例えば『こきょうの人々』を聴いて、「静かでゆったりした河の様子だよ。主旋律を鉄琴で静かに演奏したいな。それに合わせてキーボードで水がゆったり流れるような感じの伴奏を重ねると、もっと静かで落ち着いた河の感じが表せそうだな。」等である。

本単元において、子どもたちは、低音や和音と主旋律との重なりから生まれる響きの美しさを感じ取ったり、伴奏や音色が変化することで曲の感じも変わること気づいたりする。そして、自分の思いや意図に合うように音の重なりを変化させる楽しさに気づき、自分たちの演奏に生かしていこう。例えば『こきょうの人々』では、「リコーダーの主旋律だけでなく、低音や和音の伴奏をつけると広い河の感じになるよ。」「伴奏の感じが変わると曲の感じも変わるよ。流れる河の感じをもっと表すために伴奏を変えたい。」「輝く河の様子をもっと表したいな。主旋律と伴奏の音色を変えたい。」と、曲想や歌詞から思い浮かべた情景と自分たちの演奏を結び付けながら、主旋律と伴奏の音の重なりを繰り返し練習していく。その中で、「〇〇グループはオルガンと鉄琴で合わせているね。どちらも優しい音だから、静かで穏やかな河が流れている感じがするよ。」等と似たイメージをもつグループどうして互いの演奏を聴き合い、感じたことを伝え合う。そうすることで、「同じ河でも、いろいろな音の重なりで表せそうだな。友達の工夫も取り入れると、もっと思い浮かべた様子に近づけられそうだな」と、より自分の思いや意図に合う音の重なりを工夫していこう。このような姿が、学びに熱中している姿である。

(2) 子どもの意識の流れを大切に単元構成について

本学級の児童は、第4学年における『ラ・クンパルシータ』でさまざまな楽器の音色を重ねた時に生まれる響きの美しさや、友達と合わせて演奏することの楽しさを味わってきた。事前のアンケートでは、音楽が好きな一番の理由として22名が楽器の演奏や合奏を挙げていた。本単元でも、さまざまな楽器の音色を重ねたいと考えるだろう。そこで、従来単元で扱う主旋律と低音や和音との音の重なりを感じ取ることに加え、本単元内ではさまざまな楽器の音の重なりも扱う。和音を分散して伴奏したり音色を変えたりして音をさまざまに重ねて演奏することで、低音や和音の響きの美しさをより深く捉えられると考える。また、第2次では子どもたちが『こきょうの人々』を聴いてやってみようと思ったことを基に、課題解決の順序を子どもたちと考え、より自分の思いに合う演奏を目指して練習に繰り返し取り組めるようにする。そうすることで、より子どもたちの意識の流れに沿った単元構成になると考える。

Q-Uの結果から、自分からはグループに入れたいと感じている子どもが数名いることが明らかになっている。そこで、似たような思いや意図をもった人どうしてグループ練習する場を位置づけ、同じ課題に向かって活動することで安心感をもたせ、学習意欲を育てていきたい。

(3) 単元構成と学習意欲への働きかけ (総時数 8時間)

次	主な子どもの意識	学習意欲への働きかけ
第 一 次	<p>①</p> <p>「茶色の小びん」の歌をリコーダーで吹こう</p> <p>楽しい感じの曲だね。繰り返すところが難しいけど吹けたよ。</p> <p>低音があるよ。キーボードで弾いてみたいな。</p> <p>いろいろな楽器で演奏したら、楽しい感じになるかな。</p> <p>②</p> <p>グループでリコーダーと低音を合わせよう</p> <p>リコーダーとキーボードの低音が重なるときれいだね。</p> <p>他のグループの演奏を聴きたい。</p> <p>速度を変えたいな。</p> <p>③</p> <p>様子を合うようにグループで工夫して、発表しよう</p> <p>音が重なると楽しい感じになるね。</p> <p>速くなると感じが変わるね。</p> <p>他の曲でも様子を合わせて合奏してみたいな。</p>	<p>①～⑧学習課題と達成度、振り返りを書く時間を設定し、自分のがんばりに気付いたり、課題を捉えたりできるようにすることで意欲を高める。【振り返りシート(自信)】</p> <p>②⑤⑥演奏を自分の思いに近づけたいという思いに合わせて、適宜さまざまな音色の重なった演奏や分散和音での伴奏を聴かせる。【教材(探求心の喚起)】</p> <p>②③⑥⑦⑧グループ活動を取り入れ、一人では気付きにくいよさや改善点を話し合う場を設定し、自分の演奏をよりよくしたいという思いにつなげる。【場の設定(関連性)】</p>
第 二 次	<p>④</p> <p>「こきょうの人々」を歌い、感じたことを伝え合おう</p> <p>ゆったりとしていて、静かで落ち着いた感じがするよ。</p> <p>リコーダーで主旋律を演奏したいな。</p> <p>低音や和音と合わせて練習してみたい。</p> <p>いろんな楽器で合奏したいな。</p> <p>⑤</p> <p>リコーダーと低音や和音を合わせよう</p> <p>ゆっくりなので低音は弾きやすいね。I・IV・V・V7の和音にリコーダーを合わせると広い河みたいを感じるよ。</p> <p>ゆったりした河の様子をもっと表せないかな。</p> <p>⑥</p> <p>様子を合うように、和音の伴奏を選んで合わせよう</p> <p>①がゆったりしていいな。</p> <p>②は流れが速い感じだ。</p> <p>③は跳ねているみたい。</p> <p>違う伴奏を自分で考えたい。</p> <p>選んだ伴奏とリコーダーを合わせると、思い浮かべた様子に近づいてきたよ。</p> <p>もっと様子を合う楽器の音を重ねたいな。</p>	<p>④作曲家フォスターについて知らせたり、歌詞にあるスワニー河の画像を見せたりすることで、曲について具体的なイメージをもたせる。【教材(知覚的喚起)】</p> <p>⑥違う伴奏を考えたいと言った子どもは、その場で称賛し、家庭で考えてくるように伝えて授業後にワークシートを渡す。【教材(満足感)】</p>
第 三 次	<p>⑦ 本時(7/8)</p> <p>様子を合うように主旋律と伴奏の音色を変えて音の重なりを工夫しよう</p> <p>ゆったりした河だよ。</p> <p>きらきら輝く河だよ。</p> <p>魚のいる河だよ。</p> <p>主旋律はオルガン、伴奏は鉄琴にするよ。</p> <p>主旋律は鉄琴、伴奏はピアノにするよ。</p> <p>主旋律は木琴、伴奏は鉄琴にするよ。</p> <p>みんな、どんな音の重なりを選んだのかな。聴いてみたい。</p> <p>音色が変わると感じが変わるね。</p> <p>あの工夫を取り入れたい。</p> <p>もっと練習してみんなに聴いてほしいな。</p> <p>リズム楽器も入れたい。</p> <p>⑧</p> <p>工夫した「こきょうの人々」を発表しよう</p> <p>主旋律と伴奏の音をいろいろに重ねて思い浮かべた様子を表せたね。</p>	<p>⑦さまざまな楽器を用意し、音色の重なりを試す時間を設定することでより思いに合う演奏にしたいという意欲を高める。【教材(探求心の喚起)】</p> <p>⑦互いに聴き合う場を設定することで、友達の工夫に気付かせ、よりよい演奏にしたいという思いを高める。【場の設定(探求心の喚起)】</p> <p>③⑧グループで発表し互いの演奏の良さを認め合う場を設定する。【場の設定(満足感)】</p>

4 本時の学習指導

(1) 目標

思い浮かべている情景と、主旋律と伴奏の音の重なりを結び付けながら、さまざまな楽器の音色を聴き、自分の表したい情景に合うように音の重なりを選んでいる。

(2) 学習指導過程

学 習 活 動	子 ども の 意 識		
1 前時を振り返り、学習課題を確認する。	<p>伴奏を変えると、思い浮かべた様子に近づいてきたよ。</p> <p>思い浮かべた様子に合わせて、主旋律と伴奏の音色を変えたいね。</p>		
<p>様子に合うように主旋律と伴奏の音色を変えて、音の重なりを工夫しよう</p>			
<p>2 思い浮かべた様子に合う音の重なりを選ぶ。</p> <p>【場の設定（関連性）】 【教材（探求心の喚起）】</p>	<p>ゆっくり流れる静かな河だよ。</p> <p>主旋律をオルガン、伴奏を鉄琴にしてみよう。</p> <p>思った通りの音の重なりだね。様子が表せそうだよ。</p>	<p>きらきら輝くきれいな河だよ。</p> <p>主旋律を鉄琴、伴奏をピアノにしてみよう。</p> <p>思っていた音の重なりではないなあ。どの音色がいいかな。</p>	<p>水が透き通って魚が泳いでいる河だよ。</p> <p>主旋律を木琴、伴奏を鉄琴にしてみよう。</p>
<p>3 似たイメージのグループどうしてさまざまな音の重なりを聴き合い、感じたことを話し合う。</p> <p>【場の設定（探求心の喚起）】</p> <p>(1) グループごとに演奏し、聴き合う。</p> <p>(2) 感じたことを話し合い、音色を重ねたい楽器を選ぶ。</p>	<p>主旋律はオルガン、伴奏は鉄琴だね。</p> <p>自分と同じ音の重なりだ。</p> <p>オルガンの優しい音色に、鉄琴の静かな音色が重なって、穏やかで落ち着いた河の流れの感じが出ているね。</p> <p>自分たちの表したい様子が表せているよ。これにしよう。</p> <p>もっと練習したい。</p>	<p>主旋律は鉄琴、伴奏はピアノだね。</p> <p>同じ音色だけど主旋律と伴奏が逆だ。</p> <p>主旋律を鉄琴の音色にして水がきらきら輝く感じを表しているんだね。私は伴奏を鉄琴にしたけど…。</p> <p>逆になると、感じが変わるね。どっちがいいかな。</p> <p>もう少し音色の重なりを試したい。</p>	<p>主旋律は木琴、伴奏は鉄琴だね。</p> <p>自分とは全然違う音の重なりだ。</p> <p>魚を木琴で、水の静かな流れを鉄琴で表したんだね。木琴を演奏するマレットも静かな河に合うように選んでいるね。</p> <p>選んでない音色だけど、この音の重なりもいいな。</p>
<p>表したい様子に合う音の重なりが決まったよ。</p>			
<p>4 選んだ音の重なりを確認し次時の課題につなぐ。</p> <p>【振り返りシート（自信）】</p>	<p>音の重なりを変えると、思い浮かべた様子にもっと近づいたよ。</p> <p>自分たちと違う様子を思い浮かべているグループは、どんな音の重なりにしたのかな。聴いてみたいな。</p> <p>次はもっと練習をして、みんなトライアングル等のリズム楽器の音も重ねると、もっと表せそうだ。</p>		

(3) 本時の働きかけの実際と目指す子どもの姿

前時までの子どもの意識 学習活動 1

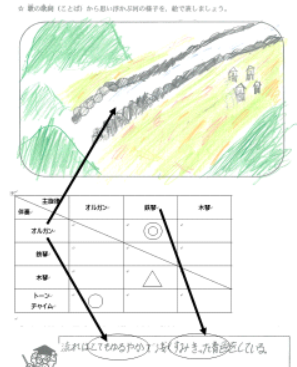
子どもたちは、前時までに主旋律をリコーダーで、低音や和音の伴奏をピアノで重ねて演奏し「もっと思い浮かべた様子に近づきたい。」という思いをもって練習を続けてきている。前時は、和音を分散してできるピアノ伴奏を聴き、思い浮かべた様子に合う伴奏を3種類の中から選択してリコーダーで合わせ「河の流れる様子が表せてきたよ。」等と伴奏をいろいろに変えて演奏するよさに気付いている。そして、「きらきら輝く様子はどうすればいいかな。」と新たな課題を見つけた子どもたちに、リコーダーに合わせて教師がトーンチャイムでの伴奏を重ね、ピアノとは違う音の重なり的美しさを感じさせることで、「主旋律や伴奏の音色を変えて音の重なりを工夫したい。」という学習課題を設定している。振り返りシートに書かれた課題を基に意図的指名をして、学習課題を確認する。



【思いに合う伴奏を選択】

学習活動 2

思い浮かべた情景が似ていて、選んだ伴奏が同じ子どもどうしでつくったグループを基に活動させる。まず、情景に合う音の重なりを試すということを確認した後、音を重ねる手順を示し、重ねた音が自分の思いに合っているかどうかを書き込むためのワークシートを配布する。もし、演奏したい楽器を試す時間がなかったり、演奏技能の不安から思っている楽器の音を重ねられなかったりする場合は、実際に演奏している人の音の重なりを聴くことで判断しても良いことを伝え、自分の思っている音の重なりを試したり聴いたりして確実に捉えられるようにしておく。リコーダーの主旋律を軸として、それに音を重ねる楽器として、キーボード（オルガンの音）、鉄琴、木琴を用意し、さまざまな音を選択して重ねることができるところを設定しておく。また、鉄琴や木琴を演奏するためのマレットも数種類用意することで、より自分の思いにあった音の重なりを選択できるようにしておく。



【思いと工夫をつなぐ】

学習活動 3

自分の思いに合う音の重なりを選んだ子どもたちは、似たイメージをもった友達がどんな音の重なりを選んでいるのか聴きたいと思うだろう。そこで、友達の選んだ音の重なりを聴き、どのような音の重なりで表すかを似たイメージをもつグループどうしで話し合う時間を設定する。そうすることで、自分の選んだ音の重なりが表したい情景に合っているかを客観的に聴いたり、自分と違う音の重なりが表している情景に気付いたりして、より自分の思いに合う音の重なりを工夫することができる。自分たちの選んだ音の重なりで満足した子どもたちは、もっと練習したいと考えるだろう。また、自分たちよりよいと感じた音の重なりを試したいと考える子どもたちもいるだろう。そこで、再度、音を重ねる時間を設定する。そうすることで、より思い浮かべた情景を表す演奏をめざし、練習したり、自分の思いに合う音の重なりを工夫していったりすると考える。

学習活動 4

授業の最後には、振り返りシートに、めあての達成度と気付いたことや今後の課題を書く時間を設定する。振り返りシートから自分のがんばりに気づき自信をもったり、「次はもっと練習してみんなで聴き合いたい。」や「リズム楽器を入れて、もっと思い浮かべた様子に近づきたい。」という課題を見い出したりしていくだろう。それらを全体場で共有することで、次時の課題設定につなげる。

(4) 総括的評価

思い浮かべている情景と、主旋律と伴奏の音の重なりを結び付けながら、さまざまな楽器の音色を聴き、より自分の思いに合う音の重なりを選んでいる。

<例>私はきらきら輝く河を表したいよ。主旋律を鉄琴できらきら輝くように演奏して、伴奏をオルガンで流れる水のように表したら、ぴったりだと思よ。 【方法：発言・ワークシート】